

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-110	13-017	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Joint associations of alcohol consumption and physical activity with all-cause and cardiovascular mortality. アルコール摂取と身体活動の合併と全死亡および循環器死亡リスク		
執筆者		
Soedamah-Muthu SS, De Neve M, Shelton NJ, Tielemans SM, Stamatakis E.		
掲載誌		
Am J Cardiol. 2013 Aug 1;112(3):380-6. doi: 10.1016/j.amjcard.2013.03.040.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、身体活動、死亡リスク		23647792
要 旨		
<p>目的： アルコール摂取および身体活動と循環器疾患との関連は、それぞれにおいて比較的確立されている。しかしながら、二つの合併による影響は明らかではない。そこで、アルコール摂取と身体活動の合併と循環器死亡および全死亡との関連を前向きに検討した。</p> <p>方法： 1997年と1998年のイングランドの健康調査および1998年と2003年のスコットランドの健康調査を用いた。男女それぞれ0.1-5メッツ時/週、0.1-4メッツ時/週を低身体活動とし、それ以上を高身体活動、0.1-35ユニット/週、0.1-21ユニット/週を中程度のアルコール摂取とし、それ以上を過度の飲酒と定義した。循環器疾患の既往有の者およびアルコールまたは身体活動の情報が欠損している者を除く17,410名を解析対象者とした（男性：43%、年齢の中央値：55歳）。中央値が9.7年の追跡で、2,204名（12.7%）が亡くなり、そのうち638名（3.7%）が循環器死亡であった。コックス比例ハザードモデルでは、婚姻状況、社会階層、教育歴、人種、長年にわたる病気を潜在的交絡要因として調整した。</p> <p>結果： 中程度のアルコール摂取・高身体活動の者に比し、循環器死亡および全死亡のハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)は、過度の飲酒・低身体活動の者でそれぞれ1.95(1.28-2.96, p=0.002)、1.64(1.32-2.03, p<0.001)、非アルコール摂取・低身体活動の者でそれぞれ1.93(1.35-2.76, p<0.001)、1.50(1.24-1.81, p<0.001)と高いリスクと関連した。各アルコール摂取の群において、低身体活動は循環器死亡リスクの上昇と関連した（中程度のアルコール摂取群のHR: 1.48, 95%CI: 1.08-2.03, p=0.014）が、高身体活動の者では、過度の飲酒は循環器死亡リスクの上昇と関連しなかった(1.32, 0.52-3.34, p=0.555)。</p> <p>結論： これらのデータは身体活動がより重要であることを示したが、過度の飲酒・低身体活動は循環器および全死亡の明らかなリスク上昇であった。</p>		